



# 神奈川県環境学習リーダー会 会報 No. 52

2006年  
8月 9日

役員会報告..... 1	部会報告	なって..... 9
「子ども環境体験教室」	エネルギー部会..... 6	大気環境部会「ツバメ観
5年目を終えて..... 2	ケナフ部会..... 6	察」に参加して..... 10
子ども環境体験教室を終わ	大気環境部会..... 7	消え行く砂丘..... 10
って..... 3	水環境部会..... 7	前号「南米チリからの便
天谷さんよ、安らかに！..... 3	廃棄物 GO3 部会..... 8	り」の答え..... 11
在りし日の天谷さん..... 4	グリーン部会..... 8	リレー登場
平塚市民活動まつり報告..... 4	豆知識のページ..... 9	山紫水明の願い..... 11
第4回地域懇談会開催案内... 5	10月は「3R推進月間」... 9	環境学習は家庭から..... 12
第3回施設見学会の案内..... 5	会員の広場	掲示板..... 12
「アジェンダの日 2006」..... 6	かながわエコ BOX 相談員に	編集後記..... 12

## 役員会報告

(事務局長 大森 勝)

### 8月役員会(8月10日)

#### 1. 確認事項

会員数 正会員 163名(天谷芳夫氏死去による退会1名)  
賛助会員 6名、特別会員 3名。

#### 2. 付議事項

平成19年度環境展開催場所及び開催日  
今年6月実施の環境展の反省を踏まえ、適当な会場を調査の結果下記の通りとすることに決定した。

開催場所：新都市プラザ(横浜駅東口、そごう地下正面玄関前)

開催日：平成19年6月16日〔土〕

県および横浜市との協働事業基金の申請  
県の協働事業〔ボランティア活動推進基金21〕への参加申請を提出する。

横浜市についても提出を前提に検討をはじめることとする。

横浜カーフリーデーへの参加

9月23, 24日 横浜公園、伊勢佐木町他で開催する。

K・リーダー会は横浜公園でパネルを展示する。

アジェンダの日2006〔仮称〕への参加

10月21, 22日 産貿ホール、ワークピアにて開催する。

“持続可能な社会を作るために”を目的とした市民参加型の展示を考える。

昨年藤沢で実施したエコタウン展示をベースに最新の資料を集め資料を作成する。

### 子ども環境体験教室の経過報告

5件中3件実施済み、残り2件は今月中実施予定。

#### 施設見学会開催

日本のエネルギー源、CO<sub>2</sub>削減努力等を実感するための見学会を開催する。

11月中旬、横浜市根岸の新日本石油精製(株)・東京ガス根岸工場見学の予定。

天谷芳夫さんへの追悼の件

次号会報に追悼記を載せる。

#### 3. 報告事項

共同オフィス(桜木町)での入居団体の親睦を兼ねた“はなそう会”への参加勧誘があった。

### 9月役員会(9月14日)

#### 1. 事項確認

会員数 163名(前月と同じ)

#### 2. 付議事項

環境展の収支報告

安丸代表(アジェンダセンター理事)より6月実施の環境展の収支取りまとめ結果の報告があり了承された。

NPO法人格取得検討委員会

先に会報で募集し応募された委員〔2名〕及び役員2名、事務局1名、計5名で委員会を発足させることとなった。(応募委員：高橋尚道、石山れいし、役員会：安丸、吉田、事務局大森)

横浜カーフリーデー

K・リーダー会展示要領等につき審議し了承された。

(アジェンダの日2006用作成パネルを出来るだけ兼用する)

## アジェンダの日 2006

展示パネルの構想案が出され、審議の結果パネルは子供にも興味を持ってもらえるものとする。ただしバックデータとして必要な資料を十分準備することとする。

### 施設見学会

日程が11月14日〔火〕に決定された。詳細内容及び参加者募集は、次号会報で行う。

### 地域懇談会

11月7日〔火〕横浜県民センターで開催する。

### 第13回市民環境活動報告会

H19年2月18日〔日〕かながわ県民センター2Fホールで行う。

実行委員会のK・リーダー会メンバーは、以下とする。

実行委員長 香川。 委員 安丸、安藤、杉山、大森、高橋尚。

### 3. 報告

#### 子ども環境体験教室反省会

環境科学センターから、来年度教室には新たなテーマの提案も検討したらどうかとの意見が出された。

## 「子ども環境体験教室」 5年目を終えて

神奈川県環境科学センター 田中 慶次

恒例となった「子ども環境体験教室」は、各教室24名、5教室合計120名の定員に対して、199名の応募がありました。受け入れ枠を増やし、抽選で139名を受け入れましたが、当日欠席などにより最終的には121名の子どもが参加しました。

教室終了時に行ったアンケートでは、94%の子どもが「とても楽しかった70%、楽しかった24%」と答えており、また、環境のことについてわかったり考えたりするようになりましたか？という質問には、「よくわかった58%、少しわかった40%」と答えています。

各教室終了時に行ったアンケートでは、以下のような感想が寄せられました。

《ツバメ、朝顔で環境チェック 7月21日》

・ 知識も広がり、今日環境科学センターに来て良かったです。水の色が変わった！と思ったり、いろいろな生き物について調べると、「エコ」にこだわり

たいなあという思いも出てきました。

《写真立てを作ろう 7月27日》

・ リサイクルはいろんなことに使えるからすごい。段ボールで写真立てができるなんて初めて知りました。ありがとうございます。

《ソーラークッカーを作ろう 7月29日》

・ リサイクルのことやアルミ・スチールマークのことがわかって面白かった。また参加したい。

《節電コンセントを作ろう 8月19日》

・ 今までそんなに省エネのことを考えたことがなかったけど、省エネの大切さがよくわかりました。



ケナフを使った自分だけのハガキを作ろう



ツバメ、アサガオで環境チェック



写真立てを作ろう

《ケナフを使った自分だけのハガキを作ろう 8月24日》

・ リサイクルとか良く聞くけどその話を身近ではあまり聞けなかったので聞いてよかったです。私は6年生なので、小学校生活最後の夏休みにいい思い出が出来ました。

また、今年も62名の保護者が同伴され、以下のような感想がアンケートに寄せられました。

・ スタッフの方々が一生懸命子供たちに向き合っていたいただき、教材も興味深いものでした。

・ 材料とか道具とか全てきちんと準備しており、先生も各テーブルにいてよかったですと思います。子供だけで参加しても大丈夫だと思いました。

・ 3年間子供と共に参加させていただきましたが良い勉強になりました。子供だけでなく大人ももっと参加できれば...と思います。

「継続は力なり」とは良く言ったもので、このように充実した教室にすることができたのは、毎年反省会を行い、より良い教室にしていこうという各教室担当者の熱意によるものだと思います。

「子ども環境体験教室」も5年目を終えました。参加した保護者の感想でも「子ども環境体験教室は毎回楽しみにしています。子供だけでも安心して行かせられてとてもよいです。来年は今年と違うテーマも検討してみてください。」とあるように、今後に向けて、より一層の工夫、メニューの入れ替えや、新たなバリエーションの追加など、更なる試行錯誤をお願い申し上げます。

最後になりましたが、色々とお気遣い頂いた代表

## 子ども環境体験教室を終わって

子ども環境体験教室担当 吉田 榮一

環境科学センター事業にK・リーダー会が協力して夏休みに実施する「子ども環境体験教室」の5講座(プラス1自主運営教室)が関係者のご尽力により、成功裏に終了しました。環境科学センター様はじめ多くの関係された方々に厚くお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

実施後の反省・意見交換会でのご意見から考えて、今回が5回目の実施という節目でもあります

## 天谷さんよ、安らかに！

佐伯 秀夫(1期生・横浜市)

の安丸元一様、全ての教室に足を運んで頂いた担当の吉田榮一様をはじめ、各教室担当者および神奈川県環境学習リーダー会の皆様のご尽力に、心より感謝致します。



ソーラークッカーを作ろう



節電コンセントを作ろう

ので、更に発展、拡大した事業にするために、次のようなことをK・リーダー会としても議論・検討してはどうかと思います。

- (1) 新しい講座を開設するよう努める。
- (2) 今後とも各講座において実施内容を増やし、また新しいものに改良して、その場に応じた内容で柔軟に実施する。
- (3) 参加者は平塚の方が多いが、その他の地域の方も多く参加できる方法を考える。

環境科学センターでは来年度もこの教室の実施に向けて計画を進めておられますので、当面来年度実施に向けて各部会でご検討をお願いします。

去る7月24日、平成11・12年の2年間にわたり我がリーダー会の代表を務められた天谷芳夫さんが死去された。享年76歳。人格・識見ともに優れ、リーダー会の進路を決める上で最も難しい時期の代

表としてもその職責を立派に果たされた指導力の持ち主であることを思えば、同氏にはもっと長生きしていただきたかったと思わざるを得ない。

さて、リーダー会においては私が養成講座の1期生、同氏が3期生で私の方が2年先輩であるが、実は同氏と私は学年的には同期で、その2年の差がついたのは同氏が65歳迄会社に務められたのに対し、私はその2年前にリタイアしたからである。しかも奇遇に思ったのは、その2年の間に私は同氏の兄君である天谷和夫氏の知己を得ていたことである。

天谷和夫氏はいわゆる天谷式簡易測定器の開発者として著名であるが、その和夫氏がNO<sub>2</sub>の簡易測定器「エコアナライザー」を開発されたのが平成5年12月のこと。私はその情報を朝日新聞の広告欄で知り、早速同器を購入するとともに和夫氏が主宰する活動団体にも加入した。そして同器の取り扱い方法等について和夫氏から直接的にご指導をいただいたり、一緒に測定活動を行ったりしていたのであった。従って、3期生の中に和夫氏の弟君がいるという情報を入手したときの驚きもさることながら、早く天谷さんにお会いしたいという気持ちの高ぶりを覚えたのを、昨日のことのように思い起こすことが出来る。

同氏がリーダー会に入会されたのは平成8年であるから、同氏とはちょうど10年程のお付き合いになる訳であるが、その間、平成8年に私がリーダー会の代表を務めていた時はもとより、平成10年に私がリーダー会の中で立ち上げた環境モニタリング部会(現・大気環境部会、水環境部会の前身)につい

ても設立の段階から病魔で斃られるまで強力にサポートしていただいた。天谷さんがリーダー会入会以前から活躍されていた舞岡公園での学習支援活動や、最近まで熱心にご自身で推進されていた地域に根ざした環境活動等が益々多忙の度を加えていた中にあっても、私のリーダー会活動に積極的にご尽力いただいたことは誠に有難く、厚く御礼申し上げる次第である。

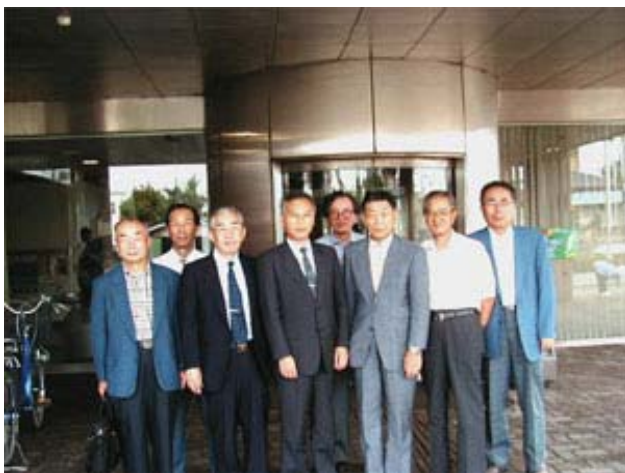
ところで、天谷さんとの関わりについては私の妻にも因縁があるので、それについても触れておきたい。というのは私の妻が天谷さんと同じ小学校の3年後輩の同窓であるということである。このことは天谷さんの実家が妻の実家に極めて近いことからつい数年前に判明したのであるが、お互いが一緒だった頃の小学校時代は何といっても戦時中のことであり、天谷さんも妻もお互いの存在を全く知らないと言うことであった。そこで私としては、機会を見て二人を面会させ、本当に知らなかったかどうかを確認させたいと目論んでいたのが、実現不可能になってしまった。

しかし実をいうと、私と妻には天谷さんから頂戴したコーヒーカップがある。それは昨年夏、天谷さんが大腸がんの手術で入院された際、その快気祝いとして天谷さんから頂戴したものである。私ども夫婦はこの対になっているコーヒーカップでコーヒーを飲みながら、折に触れて天谷さんを語っていろいろと思っている。

**天谷さんよ、どうぞ安らかに眠り給え！**

## 在りし日の天谷さん

児玉 勇(6期生・横浜市)



平成12年6月、環境科学センターを表敬訪問  
梶野所長と天谷さん(右から3人目)



平成13年10月、舞岡公園にて  
米農場での天谷さん(左から3人目)

## 平塚市民活動まつり

### 「たすけまつり」報告

原園 信夫（平塚市）

9月24日(日)平塚市民活動センターで「たすけまつり」開催され、環境学習リーダー会の平塚ブロックとして「廃紙管で貯金箱を作ろう」コーナーで参加しました。当日は市民活動37団体、スタッフを含め300名くらいが参加し、バザー、工作コーナー、名刺作成コーナー、喫茶コーナー、パフォーマンスコーナー、市民活動相談コーナーなどいろいろな催し物が出され、子供からお年寄りまで、楽しんだ一日でした。

当コーナーも、こどもから大人まで、工作を楽しみ、きれいに出来た貯金箱を大切に持ち帰ってくれました。朝から終日船平あゆみさんが応援してくれ、子供たちに丁寧に工作を教えていただきました。また、途中で安丸代表も激励に来ていた

だき、こどもに工作を教えてくださいました。今回は、古澤正文さん、荒谷輝正さんに、紙管貯金箱の事前準備をしていただき、本当にありがとうございました。



## 第4回地域懇談会開催のご案内

地域活動サポート部 香川 興勝

本会は、主として開催地域の会員に出席していただき、活動内容の紹介や環境学習リーダー会発展のための建設的な意見や要望を話し合うとともに、会員相互の親睦を深め今後の活動に有効に生かして行くことを目的に実施しています。

第4回地域懇談会を環境学習リーダー会会員の約40%が在住する横浜地区で行います。多数の方々への参加を期待しています。

- 1.開催日時 平成18年11月7日(火) 13時~17時

- 2.開催場所 かながわ県民センター6階 604室
- 3.内容 活動報告・意見交換  
2件 13時~14時頃  
懇談会 14時~17時  
・地域トピックス紹介(参加者)  
・意見交換  
・K・リーダー会現状報告  
・他
- 4.懇親会 17時~18時30分

## 第3回施設見学会のご案内

地域活動サポート部 香川 興勝

平成18年度の施設見学会は、日本における最大級のエネルギー供給施設の実体を把握すること、企業における二酸化炭素削減、環境保護および安全管理の実体を知ることなどを目的に次の二つの工場を見学します。多数の方々への参加を期待しています。

- 1.日時 平成18年11月14日(火)9時30分  
JR根岸線・根岸駅改札集合
- 2.見学施設と予定時刻  
新日本石油精製(株)根岸精油所 見学時刻

10時~12時

横浜市磯子区鳳町1-1 電話045-757-7111

昼食 12時~12時50分 (各自持参)

東京ガス(株)根岸工場 見学時刻13時~15時

横浜市磯子区新磯子町34 電話045-751-1414

### 3.参加申込み

参加希望者は次の事項を記載の上、下記宛連絡をお願いします。

- ・記載事項:氏名、連絡先電話番号・住所・メールアドレス
- ・申込み先:  
ファックスの場合 0465-336-9027(香川)

電子メールの場合

yoshikatsu\_kagawa@ybb.ne.jp

(注意：u と k の間はアンダーバーです)

・ 申込み締切日：平成 18 年 10 月 31 日（火）

4 . 注意事項

写真およびビデオ等の施設内撮影は禁止

## 「アジェンダの日 2006」

10月に横浜で開催 ~ K・リーダー会も参加予定

広報部 鎌田 裕二

2003年10月24日に採択された「新アジェンダ 21 かながわ」は一部の県民へは浸透したが、その他多くの県民に周知されるには至っていない。神奈川県は、その新アジェンダの採択日を踏まえて今年度より毎年10月第3週の土曜、日曜を「アジェンダの日」として位置付け、県民参加型のイベントを実施することにした。イベントにより新アジェンダの周知を図り「2033年のかながわ」の実現への取り組みの強化を図る。

本年度のメインテーマは「地球温暖化を知り、考え、行動しよう」である。本年6月改訂の「神奈川県地球温暖化対策地域推進計画」の周知も図る。

会場は山下公園向かいの横浜産貿ホール一階展示場（横浜市中区）、会期は10月21日、22日。時間は10時から17時（最終日は16時）。

K・リーダー会も参加を予定している。ご協力いただける方は役員までお知らせください。

主催者への問合せは神奈川県環境農政部環境計画課「アジェンダの日 2006 実行委員会」事務局（TEL 045-210-4065）まで。

## 部会活動

### エネルギー部会

部会長 安藤 紘史

活動予定（'06年10月～'06年11月）

定例部会（於：県民サポートセンター）

10月11日（水）14:00～15:30 702号室

11月8日（水）14:00～15:30 703号室

12月12日（火）14:00～15:30 702号室

アジェンダの日 2006

10月21日（土）、22日（日）横浜産貿ホール  
リーダー会の一員として参加

活動報告（18年8月～18年9月）

8月度定例部会：

8月9日（水）13:00～15:00

場所：県民サポートセンター 709号室

参加者：岩澤、小田、大森、鎌田、北村、児玉、  
中島、安藤、

「子ども環境体験教室」最終打ち合わせ。

冷蔵庫の消費電力測定方法が利用実態に合わせて変更され、そのJIS改正が5月に公示。

売れ筋である400L～450Lクラスで表示される年間消費電力量が3倍にもなるので注意を要する。

こども環境体験教室：

8月19日（土）環境科学センター

「節電コンセントを作ろう」をアース・エコと共同で実施。9名がフル活動でサポートに当たり忙しかったが、所定の成果をあげる事ができた。

9月度定例部会：

9月13日（水）13:00～15:00

場所：県民サポートセンター 708号室

参加者：北村、大森、児玉、鎌田、小田、岩沢、横山、安藤

「子ども環境体験教室」の反省  
新エネルギーの普及上の課題

課題は、コストが高い事に加えて、わが国の新エネルギー普及目標が先進諸国の中で大変低いのも問題である。これらの問題について積極的に発言してゆく事が必要。

~~~~~

### ケナフ部会

ケナフ部会長 荒谷 輝正

ケナフ部会員が携さわった 2006 年 8 月～2006

年9月までの活動及び10月～11月迄の予定について報告します。

1 . ケナフ部会定例会

7/7 環境科学センター - 「子ども環境体験教室」に使う材料を環境科学センター - に持参

ケナフ畑の草取り等圃場管理

7/20 ケナフ部会定例会 ケナフ部会定例会 環境科学センタ - 主催、7月27日開催の子ども環境教室 「写真立てを作ろう」の準備・材料揃え、スケジュール・分担確認

7/27 環境科学センタ - 主催 子ども環境体験教室 「写真立てを作ろう」

参加 古沢さん、小川さん、鈴木さん、荒谷が講師として参加、受付に安部さん。K・リーダー会より吉田副代表にご参加頂きました。

8/18 ケナフ部会定例会 環境科学センタ - 主催、8月24日開催の子ども環境体験教室「ケナフを使った自分だけのハガキを作ろう」の材料確認、スケジュール、分担確認

8/24 環境科学センタ - 主催 子ども環境体験教室 「ケナフを使った自分だけのハガキを作ろう」

参加 小川さん、鈴木さん、安部さん、荒谷が講師、 受付 古沢さん、小糸さん。 なお、

安丸代表、吉田副代表にご参加頂きました。

## 2. REWOOD クラブの活動状況

9/24 平塚市民活動センターで「たすけまつり」にリ・ダー会で参加するとのことで原園さんの要望で貯金箱材料40個提供

8/23、25 REWOOD 工房で子ども対象に、古紙紙管を利用した工作教室を開催 合計6名参加

9/16 相模原市大野北公民館の要望で「古紙紙管を利用した工作教室」を開催 小学生19名参加

## 3. 今後の予定

11/19(日) ふるさとのばの会(福祉のつどい) am10:00 ~ pm3:00

「ケナフを利用した紙すき」

11月 ケナフ部会の研修予定

## 4. その他

紙管は必要の方に差し上げていますが、加工については各自で行ってください。

## 大気環境部会

部会長 猪股 満智子

### 活動予定

9月21日(木) 13:30~16:30 定例部会開催

場所; NPO センター大船

主な議題; ・18年6月度NO<sub>2</sub>測定評価と検討  
・VOC/PRTR プロジェクト報告及び「横浜カーフリーデー」「アジェンダの日2006」での展示内容検討  
・ミニ学習会「ぜんそく?」など

**部会員以外の方もご参加ください!**

日程は、11月27日(月) 13:00~16:30

学習会とNO<sub>2</sub>測定準備 場所; KERC 実習室

学習会「浮遊粒子状物質 SPM・PM について、アスベスト最前線」

講師; KERC 環境保全部専門研究員 小山 恒人氏

終了後; 測定用紙充填作業

12月7日(木) 夕方~8日(金)の24時間測定

12月16日(土)13:00~16:30 NO<sub>2</sub>測定分析

### 自然度調査「ジョロウグモ」 ご参加ください!

調査方法; 自宅敷地内又は調べたい所で見つけたジョロウグモの各総数と各住所を報告下さい  
報告先; 猪股宛; tel&fax 0467-32-6858

e-mail km\_inmt@ybb.ne.jp

特徴; コガネグモ科、馬蹄形(U字形)、三層構造の網。メスは大きく派手で初冬には3cm程に。

調査期間; 9月~12月末 調査報告; 1月20日

### 活動報告

6月29日(木)13:30~16:30 NPO センター大船

VOC/PRTR プロジェクト 第1回 参加; 6名

ホームページ用、「アジェンダの日」用展示の視点とまとめ方について検討

7月6日(木) 13:30~16:30 NPO センター大船

mapping プロジェクト 第1回 参加; 5名

NO<sub>2</sub> map 入力208地点に絞込み。自然度map手法

8月17日(木) 13:30~16:00 NPO センター大船

VOC/PRTR プロジェクト 第2回 参加; 4名

アジェンダ展用の原案の視点と落としどころ検討

## 水環境部会

部会長 斉藤 昭一

9月17日、松田駅集合、古谷、杉崎、猪股、齋藤4名、酒匂川本流のすぐ側を流れる金瀬川、飯

泉橋地点にて調査をする。古谷氏の孤軍奮闘にてヌマエビ、ミナミヌマエビ、マドジョウ、他を採集した。心配された空模様もお天道様が顔出すまでに回復して無事に終了する事ができた。おもえば先月17日ちょうど1ヶ月前のことである、2名の尊い

命をここで水難事故で失ったのである。ここに「謹んで哀悼の意を表するものである」。

昼休み時、ニュースを聞いて驚いた、事故の遭った人の名前が私達のメンバーと同じであったことから驚いたの、何の。急ぎ TEL して無事を確認して胸をなでおろしたのも記憶にあたらしい。そのこともあって調査に入る前に漁業組合の事務所に行って挨拶する事とした。川に入りそのときのことを追った。「30分で2.3倍」警告システムなし。あの日の夕刊の見出しである。・・・「川の水の突然の

怒り、自然の脅威」・・・どんなに人智を働かせようにもどうしようもない、どうする事もできないその恐ろしさ。「運が悪かった」では済ませることができない事柄ではないでしょうか。川を愛し、川に親しむ我々も決して油断があってはなるまい。今後は救命具をつけることも考える余地も必要ではないだろうか。・・・次回は**10月8日 JR 松田駅 9時集合**である。環境科学センターより石綿研究員も参加します。部会員の皆さんもお忙しいとは思いますが、ぜひとも参加する事を心待ちしています。

## 廃棄物GO3部会

部会長 原園 信夫

【計画】部会開催 11/4 10時～12時(予定)

- ・ゴミ分別カレンダー分析について
- ・こども体験学習について
- ・消費者教育支援プログラムについて
- ・家電リサイクル法の情報交換 他

【報告】

1. 7月29日こども環境体験教室で【ソーラークッカーを作ろう】を例年通り実施しました。  
当日はあいにく曇りで、ソーラーのパワーを確認できなかった子供達の落胆した顔が心に残りました。  
8月26日は、子供環境体験教室の落選者に、環境科学センターから案内を出してもらい、部会の自主運営でフォローを行いました。7名のこどもと2名の母親 合計9名に工作してもらいました。またまたあいにくの曇りで、用意した卵はお土産に持って帰っていただきました。  
+ きちんと5Rと環境ラベルについての勉強もしてもらいました。

## グリーン部会

部会長 杉山 陽絵

<今後の活動予定>

- ・10/20-22 湘南ひらつかテクノフェア 2006 出展予定
- ・11月下旬 子ども会の親子を対象にスーパーの協力を得て講座を実施予定
- ・来年1月 平塚市内の小学校で授業を実施予定

地産地消マップ作り

神奈川県内の農産畜産物の産地マップを作りたいと思っています。お近くの農場や果樹園情報、地元の食材の買い物ができる場所など、地域の情報を是非お寄せください。

2. 産業構造審議会(産構審)・中央環境審議会(中環審) で家電リサイクル法の見直し論議中  
主な内容:

- ・平成17年度 家電リサイクルプラントで処理された台数約12百万台。想定される廃棄台数2千万台。不法投棄17万台。海外への輸出2百万台。
- ・鹿児島の離島等でのリサイクル料金とは別の運送費の差別を何とか解消して欲しい。
- ・排出時排出者負担は、リサイクルにお金がかかるという概念を消費者に浸透させることが出来た。
- ・排出時排出者負担が不法投棄を生む。(小売店は前払い制度を希望)
- ・4家電+電子レンジ、衣類乾燥機 以外にも品目拡大はあるか?
- ・ストックヤードをAB共通にして欲しいなどメーカー側と小売店、消費者、自治体側では制度の運用に大きな相違が見られる。

グリーン部会の活動を共に進めてくださる方を大募集!

興味のある方は、ぜひ杉山までご連絡下さい。

<活動報告>

- 8/8 神奈川県消費生活課主催  
消費者教育教員研修 講師  
「環境に配慮した買い物について」
- 8/9 ミーティング  
・研修会 振り返り  
・大人向けプログラムの検討
- 8/28 ミーティング  
・大人向けプログラムの検討  
・スーパーとの連携について
- 9/16 地球温暖化防止活動推進員・基礎研修  
「グリーン購入と温暖化防止」を実施



## = 豆知識のページ =

### 10月「3R推進月間」

廃棄物G03部会 鎌田 裕二

リサイクル関係 8 府省、すなわち内閣府、財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省は毎年 10 月を「3R 推進月間」とし、日本全国各地で廃棄物に関するセミナーやシンポジウムを開催する。行事の詳細は 9 月末に経済産業省から報道発表される予定。当初は「リサイクル推進月間」として始まったが、リサイクル以外にも重要であることから 2002 年度に名称が変更された。リーダー会の方へは改めて 3R の概念を説明する必要はないと思うが、リサイクルと比較してリデュース、リユースへの実践が社会的に本格的に進んでいるのか心配である。

日経 BP 社発行の日経エコロジーの姉妹紙「ecomom」という女性誌の最近の調査によると

「クールビス」の意味を知っているのが 92% に対して「3R」の意味を知っているのは 14% と非常に低かった。読者層は 79% が子どもを持ち、半数が仕事を持ち、平均年齢は 34 歳である。

この記事の執筆にあたり経済産業省リサイクル推進課へ本年度も 10 月が「3R 推進月間」であることを確認するために問い合わせた。その際、国民展開するためには、9 月末ではなくもう少し早い時期での報道発表による国民への周知徹底への要望を担当者へ伝えた。



## 会員の広場

### かながわエコ BOX 相談員になって

吉田 栄一 (横浜市) ・ 鎌田 裕二 (大和市)

本年度 6 月より「かながわエコ BOX (正式名称：アジェンダ 21 かながわ環境情報相談コーナー)」において環境情報コーディネーターと呼ばれる相談員業務を始めた。「かながわエコ BOX」はかながわ県民センターの 3 階に所在する。昨年度までも K・リーダー会の方がエコ BOX の相談員に就かれていたが、本年度より吉田、鎌田が相談員に加わり、K・リーダー会からは現在 10 名が相談員として活動している。

「かながわエコ BOX」では「新アジェンダ 21 かながわ 持続可能な社会への道しるべ」、地球温暖化防止活動、環境教育などを中心に幅広い環境分野を網羅する情報や相談を県民の皆様などへ提供する窓口である。相談は電話やメールで、もしくは直接来訪された方へ行なう。その他に図書 (蔵書約 250

冊) の貸し出し、積算電力計 (待機時消費電力の測定等に使われるワットアワーメータ) などの機材貸し出し、各団体が発行する資料等の配布を行なっている。資料は適宜更新され、本記事執筆時に、本年度 10 月より運用される小売事業者における省エネに関する表示制度 (統一省エネラベル) に関する資料が新たに加わった。

経験した実際の相談には、同施設に入居している生涯学習センター経由で地元で「緑」の関係のボランティアを行いたいという相談が寄せられ、こちらからその地元市の行政に連絡し直接の会話を促したり、ある市の企業から ISO14000 関連の質問があり県や市町村にこちらから問合せをし得た内容を回答した。また、中学 2 年生の男子生徒がひとりでエコ BOX に入室しアジェンダとは何かと質問された。アジェンダ 21 や青い地球のパンフレットを使って説明し熱心に聴いてもらえ、マイアジェンダにも登録してくれた。実はお母さんが廊下において子どもの対応を心配そうに聞いておられていた。子どもに外の大人との対話の機会を与えるための意味があったようだ。

相談員を始めて間もないが、自分の知らない問題

に関してできる限りの調査をしての回答をするために自分自身の知識の取得に繋がり、様々な経験が自分に新たな世界をもたらしているように感じている。相談内容はすべて記録されエコ BOX 全体のノ

ウハウの蓄積となり相談員同士の切磋琢磨もある。エコ BOX は年末・年始を除く毎日 9 時から 20 時まで利用できる。お近くにお越しの際には是非、立ち寄っていただきたい。

### 会員の広場

## 大気環境部会「ツバメ観察」に参加して

安藤 紘史 (逗子市)

省エネ生活のお蔭で歩くチャンスが増えた。ツバメ観察には好都合である。従って、4 月から 8 月は、駅や買い物途中に、ツバメを観察して(よそ様の軒下を覗き込みながら)歩いた。日々成長する雛や、けなげに育てている親鳥を見ているとこちらの心も和んでくる。省エネ、運動、気分爽快・・・ツバメ観察は 1 石 3 鳥である(注:鳥には石を投げないでください)・・・来年は皆さんもいかがですか。

典型的なパターンは、4 月初旬来日、4 月下旬抱卵、6 月上旬雛巣立ち、6 月下旬抱卵、8 月雛巣立ち。そして雛が巣立っても暫くは 1 時間に数十回の給餌が続く。そして秋には南の国へ。なんとも忙しい半年である。

観察した 12 箇所の内、壊されたりして巣を放棄したものが 3 箇所。9 箇所 11 個の巣を使って(8 組くらいのペアと思われるが)13 回の雛の巣立ちに成功していた・・・(内一組はコシアカツバメ)。巣

立った若鳥の合計は 43 羽+であった。一つのペアが 6 羽ほど育てた事になる。(ペアになれなかったもの、巣を追われて育てられなかった者を加味すると平均値は下がり、これ以外の場所で子育てをしていれば平均値は上がる。)一方、来年来るツバメの数は今年と大きくは変わらないであろう。と言うことは、若鳥約 6 羽と親鳥 2 羽が来年は 2、3 羽程度に減る事であり、なんとも厳しい世界ではある。6 月初旬、巣立って間もなくの若鳥 3 羽が電線に止まっていた。親鳥がどんな風に餌を与えるのかしばらく眺めていた。12 分間の結果はなんと、A には 12 回、B には 4 回、C には 1 回である。

強者生存・・・ここでも厳しい世界を実感した・・・上記の厳しい世界で子孫を残すにはこれしかないか。

人間の世界も食糧難の時代が近いという。人間はその時にはどんな子育てをしているであろうか。

そして、これは余分な心配・・・ツバメは電線に止まることが多い。江戸時代は何に止まっていたのであろう??



### 会員の広場

## 消え行く砂丘 我々に無関係ではない

鎌田 裕二 (大和市)

8 月の上旬に「中田島砂丘」(静岡県浜松市)を訪ねた。中田島砂丘は、東は御前崎(静岡県)、西は伊良湖岬(愛知県)に至る遠州灘の中ほどに位置し、日本三大砂丘の 1 つである。私自身約 10 年前に一度訪ねたことがある。その時の会話「せっかく来たのだから海が見えるところまでは、砂丘を登ろう」がゆるやかに蘇ってきた。駐車場に隣接する入り口に立つと、かつては砂丘で視界が遮られていた、しかし現在では同じ場所から海が見えるほどに砂丘が減った。昭和 30 年代にはサンドスキーで賑わった場所であることは今の光景からはまったく想像できない。砂丘入り口では、高潮に備えた堤の造成が

急ピッチで進んでいる。砂丘は既に高潮を止める力のないほどに衰えているからだ。急激な砂丘の減少は何故起きているのであろうか?

遠州灘海岸には、諏訪湖を水源とし、アルプスの山々に降り注ぐ雨を集めながら延長 200Km を超える天竜川が注ぎ込む。200 万年以上の長い歳月の間、天竜川は日本の屋根から下流に土砂を運び続けることにより遠州平野を形成したと考えられている。前述の中田島砂丘も壮大な自然の力によって形作られた地形である。

50 年前に天竜川の土砂の流れを人間が止めた。昭和 31 年に河口から約 70Km 上流に佐久間ダムが完成した。佐久間ダムは水力発電を行うためのダムであり、年間約 14 億 Kwh の電力量を、約半分ずつそれぞれ中部電力、東京電力へ、供給している。その完成以来、土砂は下流に流れる代わりにダムに溜まり、現在ではダムの総貯水容量の約 40% が土砂で占められている。ダムの貯水容量を維持するための浚

渾などが行なわれているが浚渫された土砂は砂利や骨材として建設に利用され下流に流れていくわけではない。

上流からの土砂の供給が止まって以来、海底に堆積していた土砂が侵食されていたが、その堆積分が侵食し尽くされ、この約3年間ほどで中田島砂丘の海岸侵食が急激に顕在化してきた。対処的にテトラポッドの設置は現在でも続けられているが、その底部の砂が侵食されるだけで過去に設置されたテトラポッドは既に海面下に沈んでいる。

ダムによる影響は下流域のみならず中流の環境にも影響を与えている。砂はダムに溜まるが泥は流れる。ダムの下流では恒常的に水が泥で濁っている。泥が川原の岩石表面にこびり付き、こけの繁殖を妨げ、鮎などの川魚の棲みかとして不適当な川となる。

佐久間ダムの建設は私の生まれる前の出来事である。その時点では電力の確保が最優先されたのであろうと憶測するしかない。自然の土砂の流れを変えてしまったことの影響が顕在化している現在、そ

の対策が必要であろう。程度の差はあれ同様の現象は全国で起きているようだ。それ以上に、天竜川だけを見てもそれは既に川の上流から下流という流域に住む人たちだけの問題ではないと思う。すなわち対策も流域だけの課題ではない。多かれ少なかれその川に在るダムと我々は電線で繋がっているからだ。



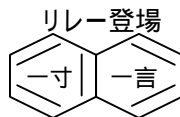
## 会員の広場

### 前号「南米チリからの便り」の答え

藤田 滋 (南米チリ在住)

前号にチリの首都サンチャゴ近郊のタラガンテ市にある畑の光景の写真 2 枚を掲載した。畑の作物はそれぞれ、苺畑 (赤い実が見えている)、ホウレン草 (害虫管理が大変) である。

### 山紫水明の願い



荒谷 輝正 (相模原市)

山紫水明とは辞書によれば、「美しい景色」という事だそうであるが、古くから人は青い山、清い水、そうしてきれいな空気存在が美しいと感じたのであろう。古人には空気という存在は感じなかったでしょうし、空気はきれいなのがあたりまいで有ったと思います。

実は、こんな時代は私の少年時代まであったのです。川では、「はや」を網で掬い、夏には裸になって川で泳ぎ、また灌漑用に溜めてある池は、夏の湧水期には放流され、浅くなった池でバケツ何倍ものフナを掬い、秋には松茸取り、秋祭りが済むと、どこの山に入ってもよい事になっていて、日が暮れるまで山中を歩き回りました。

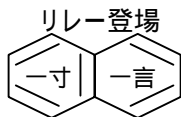
そうして、忘れられないのが「がんび」採りです。「こうぞう」、「みつまた」、「がんび」は和紙の原料で、子どもの小遣い稼ぎでした、この灌木の皮を山から採って来て「がんび」を集めに来る、

商売のおじさんに売って小遣いにします。「がんび」が紙の原料になるらしいと聞いていましたが、どのようにして作るかは知らなかったもので、後にケナフという植物に出会って、紙漉きに魅力を感じているのも何かの縁でしょう。

私の住んでいる相模原市も周辺の町と合併して人口 70 万人超、面積は以前の 2.3 倍になり、広がった土地は、まだ緑、水も豊富な、まさしく山紫水明の土地です。相模原市も平成 12 年に ISO14001 の認証取得、平成 18 年 4 月には環境情報センターの設立、昨年からは麻布大学と協力して「環境まつり」の開催と着実に環境関係にも力を入れています。私は相模原市自然観察委員、相模原市大野北公民館の環境委員として地元相模原市に貢献出来れば思っています。また、第一期の古沢さんの主宰されている REWOOD クラブのお手伝いを及ばずながらさせていただきます。

今回は REWOOD クラブを平成 4 年から主宰されている古沢さんをお願いいたします。

# 環境学習は、 家庭から



船平 あけみ(平塚市)

H17.9 月環境実践講座に参加し、そのままK・リーダー会に加入してしまいました。13 期なので同期の方は広報部長の鎌田さんや長村さんをはじめいろいろ活動されている方が多く、入会は時期尚早ではなかったかと反省しきりです。

6 月の環境月間イベントで、安丸代表もパネラーとして発表されていた「ツバル国からの緊急アピール」に参加しました。世界ではじめに沈む国としてTVなどで取り上げられていることが多くなった国です。ツバル国は8つの島(本当は9つですが)からなる島国で、面積は26 平方kmで新島や品川区と同じ大きさであり、人口約一万人で半分が子供ということです。ツバル国のパーニ・ラウペパさんによる美しい風景色の写真で、自然と調和した暮ら

しの様子が語られました。そして、近年ツバル国は地球温暖化により、海面上昇の被害、ハリケーンの増加、波による浸食、畑の塩害などの深刻な問題が起きています。

世界各地で地球温暖化防止を目的とした多くの活動が行われていますが、日本では“CO2 マイナス6%”という言葉を目にするようになってきたように思います。そして、この海拔1メートルの島国ツバルでは、その自然や暮らしを守るために世界にメッセージを発しています。

私も同じ地球上の人間として出来ることを、子供たちの為にも行動していきたいと思っています。まだまだ学習不足で大きな活動はできませんが、“ひらつか CO2 コツコツプラン”など私達の子供たちにも後姿をみせながら活動していきたいと思っています。

今回は同じ13 期ということで、湯河原在住の矢崎祐美さんをお願いします。

## 掲示板

### 広報部からのお知らせと会報発行作業への参加 お願い

本会報は原則、隔月の奇数月の月末に発行しています。原稿はその月の15 日を締め切り日とし、その後、広報部内で編集・校正を行いません。発行日は月末の土日どちらかの日に朝9 時より昼頃まで、横浜駅西口にある「かながわ県民センター」で行なっています。校正された原稿を前夜に自宅で複製のための原稿として印刷し当日はそれをリソグラフ(簡易印刷機)で複製することから作業が始まります。その後A3 用紙を二つ折し、他のページと併せて行くと同時に、発送用に封筒への宛名貼りをを行い、両者がそろったところで封筒へ入れます。すべての作業が完了すれば発送(現在はメール便を利用)です。現在の広報部員ではこれらの作業は不可能に近く、広報部を退部された先輩や、役員の方々からの手伝いに依存しています。そこで、皆様をお願いします。

会報発行作業では、和やかな雰囲気のもと、いろいろな情報交換や親睦も出来ますので、皆様の積極的な参加をぜひお願いいたします。ほんの少しの時間で構いません。あなたのお越しをお待ちしています!

(広報部長 鎌田 裕二)

### 編集後記

10 月は「3R 推進月間」で県・市町村で種々のキャンペーンが繰り広げられると思うが、本当に生活者の皆さんに3Rの重要性についての趣旨をご理解・実行して頂く方法について真剣に考える必要があると思う。

ややもするとキャンペーングッズの為にアンケートを書いたり、マイアジェンダに登録したりという風景を見かけるが、結果そのグッズ類はすぐにゴミと化すことになる。アンケートは如何生きるのだろうか? 全国で合わせれば膨大な金額が使われていると思われるが、首相・環境大臣・大物タレントにボランティアで出演して貰い巨大メディアを使って、ゴールデンタイムに全国的に訴えかけるくらいのことをできない物だろうか? 「モッタイナイ」、「クールビズ」や風呂敷くらいの反響を期待したいと思うのであるが...

広報部 黒澤 宏

発行人：神奈川県環境学習リーダー会  
代表 安丸 元一

編集人：広報部長 鎌田 裕二

TEL/FAX 046-272-7021

発行日：2006年9月30日

ホームページ：

[http://members.at.infoseek.co.jp/k\\_leader/](http://members.at.infoseek.co.jp/k_leader/)